

第二回星野立子賞受賞句集

『的 躑』 三十句抄

西嶋あさ子

綿虫の綿のあをきも淡海かな
大根をすたとんと切つて一人なる
凍蝶に火柱の立つ没日かな
この世また一日過ぐる桜かな
ほとけさまなれど母の日ちらし寿司
風邪癒えてまづ存念の櫛見に
年々や桜にかなふ髪の白
夏潮や帽深く征き十九歳
的躑と寒梅一枝一周忌
一所懸命紅梅も白梅も
加賀膳のまづは枸杞酒や春の雪
満開の桜の下の昏さかな
たかななの金剛力を蔵しけり
蟻一つ文机を行く師の忌かな
ひとりづつ死んでゆきたる紅葉かな
寒木に月光惜しみなかりけり
木の葉髪むかしは髪を驕りけり
箔を置くやうに吉野の春の月
紅梅は暮れ白梅に立つは死者
わが死後のひひな思へり納めけり
お玉杓子尾がうれしくてうれしくて
白牡丹捨身にまどひなかりけり
葱坊主子を持たざれば子に泣かず
草の花母負ひしことなかりけり
鬼の子の月よりの糸たぐりけり
去年今年けやきは常になつかしき
寒木の一枝一枝やいのち張る
面打ちになほ見ゆる面秋の暮
一輪の一穢なき白帰り花
火の色のときをり赤し札納